

平成 27 年 7 月 30 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行  
 代表者名 代表取締役社長 工藤 英之  
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 28 年 3 月期 第 1 四半期決算について  
 ~ 通期業績目標に対する進捗率は 32% ~

当行の、平成 28 年 3 月期の第 1 四半期における親会社株主に帰属する四半期純利益<sup>1</sup>は 225 億円、前期比 25 億円の増益となり、通期業績予想である 700 億円に対する進捗率は 32%となりました。単体四半期純利益は 194 億円、前期比 27 億円の増益となりました。

## 損益の状況(連結)

(単位:億円)

	平成28年3月期 第1四半期(3か月)	平成27年3月期 第1四半期(3か月)	増減額
業務粗利益	579	578	0
経費	△349	△350	1
実質業務純益	230	228	1
与信関連費用	20	7	12
親会社株主に帰属する四半期純利益 <sup>1</sup>	225	199	25
同キャッシュベース四半期純利益 <sup>1,2</sup>	242	219	22

<sup>1</sup> 企業結合に関する会計基準の改正を踏まえ、平成 28 年 3 月期より、親会社株主に帰属する純利益、親会社株主に帰属するキャッシュベース純利益へそれぞれ表記が変更されております

<sup>2</sup> 親会社株主に帰属する純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

## 業績

- **業務粗利益**は、579 億円となり、前第 1 四半期比微増。このうち資金利益は 311 億円で、前第 1 四半期の一時的増収要因の剥落を、調達コストの減少と消費者金融業務での貸出増加に伴う収益の伸長が上回ったことなどにより、前第 1 四半期比 2 億円増加。非資金利益は 268 億円で、前第 1 四半期にあったプリンシパルトランザクションズでの大口の収益が剥落した一方で、ALM 業務を含む市場関連取引からの収益や、リテールバンキング業務での投資商品販売、アプラスフィナンシャルの割賦収益などが堅調に推移したことなどにより、前第 1 四半期比微減。
- **経費**は、349 億円となり、前第 1 四半期比減少。経費率は 60.3%。
- **与信関連費用**は、消費者金融業務での貸出増加に伴う貸倒引当金繰入を、法人部門における大口の戻り益が上回ったことなどもあって、当第 1 四半期は 20 億円の益。
- **親会社株主に帰属する四半期純利益**は、前第 1 四半期の 199 億円から 25 億円増益となり、当第 1 四半期は 225 億円。
- **単体四半期純利益**は、前第 1 四半期の 167 億円から 27 億円増益となり、当第 1 四半期は 194 億円。
- **総資産**は、平成 27 年 3 月末の 8 兆 8,898 億円から 1,226 億円増加し、平成 27 年 6 月末は 9 兆 125 億円。

## 資本および資産の質

- **自己資本比率**は、内部留保の着実な積上げなどにより、連結自己資本比率は平成 27 年 3 月末の 14.86% から平成 27 年 6 月末の 15.14%へ改善。
- **不良債権比率**は、不良債権処理の一段の進展により、平成 27 年 3 月末の 1.42%から平成 27 年 6 月末の 0.83%へ低下。

当期決算の詳細については、以下当行 URL(「IR 情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL: [http://www.shinseibank.com/corporate/ir/quarterly\\_results/index.html](http://www.shinseibank.com/corporate/ir/quarterly_results/index.html)

以上